

2024年10月28日

各位

株式会社トランスジェニック

当社とアンジェス(株)との共同研究開発の進捗に関するお知らせ
～TGZFを用いた炎症スクリーニング系構築～

当社は、2022年11月から薬剤スクリーニングを目的としたトランスジェニックゼブラフィッシュ^{※1}モデル（以下、TGZF）の開発を、アンジェス株式会社（代表取締役社長 山田 英、大阪府茨木市、以下、アンジェス）との間で、共同で進めてまいりましたが、このたび、本共同開発が目標としていた炎症反応経路における重要なレギュレーター遺伝子である NFκB を軸とした炎症刺激に反応する TGZF を作製し、NF-κB デコイオリゴ DNA^{※2}をはじめ、各種モダリティによる抗炎症効果を評価するための TGZF モデルを用いた炎症スクリーニング系を構築いたしましたので、お知らせいたします。

今回の開発成果については、論文等で明らかにするとともに、受託サービスに展開するべく準備を進めてまいります。サービス開始の際は、あらためてお知らせいたします。

今後、当社は、新たな成長領域と考えられるゼブラフィッシュを用いた薬効薬理、安全性試験の市場に対して、引き続き高付加価値創薬支援サービスを提供し、企業価値の更なる向上を目指してまいります。

株式会社安評センターは、2024年10月1日付で株式会社新薬リサーチセンターと合併し、「株式会社トランスジェニック」に商号変更しております。

◆ご参考


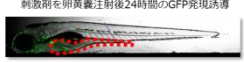


※1 ゼブラフィッシュ

ゼブラフィッシュは、ヒトとゼブラフィッシュ間の疾患ゲノム類似性は約80%などの特徴がありヒトへの外挿性が高く、スクリーニングが簡便なこともあり需要が高まっています。また、トランスジェニック ジェノミクス事業部の専門領域であるトランスジェニック（遺伝子改変）技術に応用したトランスジェニックゼブラフィッシュの開発や幅広いヒト疾患モデルなどの開発が進み、2021年度129億円（1USD=144JPY）から2028年には334億円に拡大すると予想されています（Global Information “ゼブラフィッシュの世界市場（2022年）”引用）。

※2 NF-κB デコイオリゴ DNA

NF-κB デコイオリゴ DNA は、アンジェスが、生体内で免疫・炎症反応を担う遺伝子群のスイッチ『転写因子 NF-κB』に対する特異的な阻害剤『NF-κB デコイオリゴ』を設計し、NF-κB の活性化による過剰な免疫・炎症反応を原因とする疾患の新しい治療薬として研究開発を進めている核酸医薬の一つです。

◆概要

研究開発内容・目的	開発進捗状況		
 <p>Trans Genic Inc. (株)トランスジェニックは炎症性刺激によるGFP発現及び薬剤に対する反応性の確認が可能なTGZFモデルを開発</p> <p>刺激剤を卵黄嚢注射後24時間のGFP発現誘導</p>  <p>AnGes ・(株)アンジェスは炎症に関連する種々のタイプの薬剤を用いてTGZFモデルの有用性を検証</p>	No	開発工程	進捗
	(1)	GFPレポータープラスミド及び Transposase発現ベクターの作製	
	(2)	TGZFモデルの作製 (F2)	
	(3)	TGZFモデルの検証	
	(4)	各種薬剤への反応性の確認	
	 TGZFを用いた薬剤スクリーニングサービスの開始		

◆関連リリース

2023年11月10日

当社とアンジェス株式会社との共同研究開発の進捗に関するお知らせ～TGZF 完成～

2022年11月10日

アンジェス株式会社との共同研究開発に関するお知らせ

以上